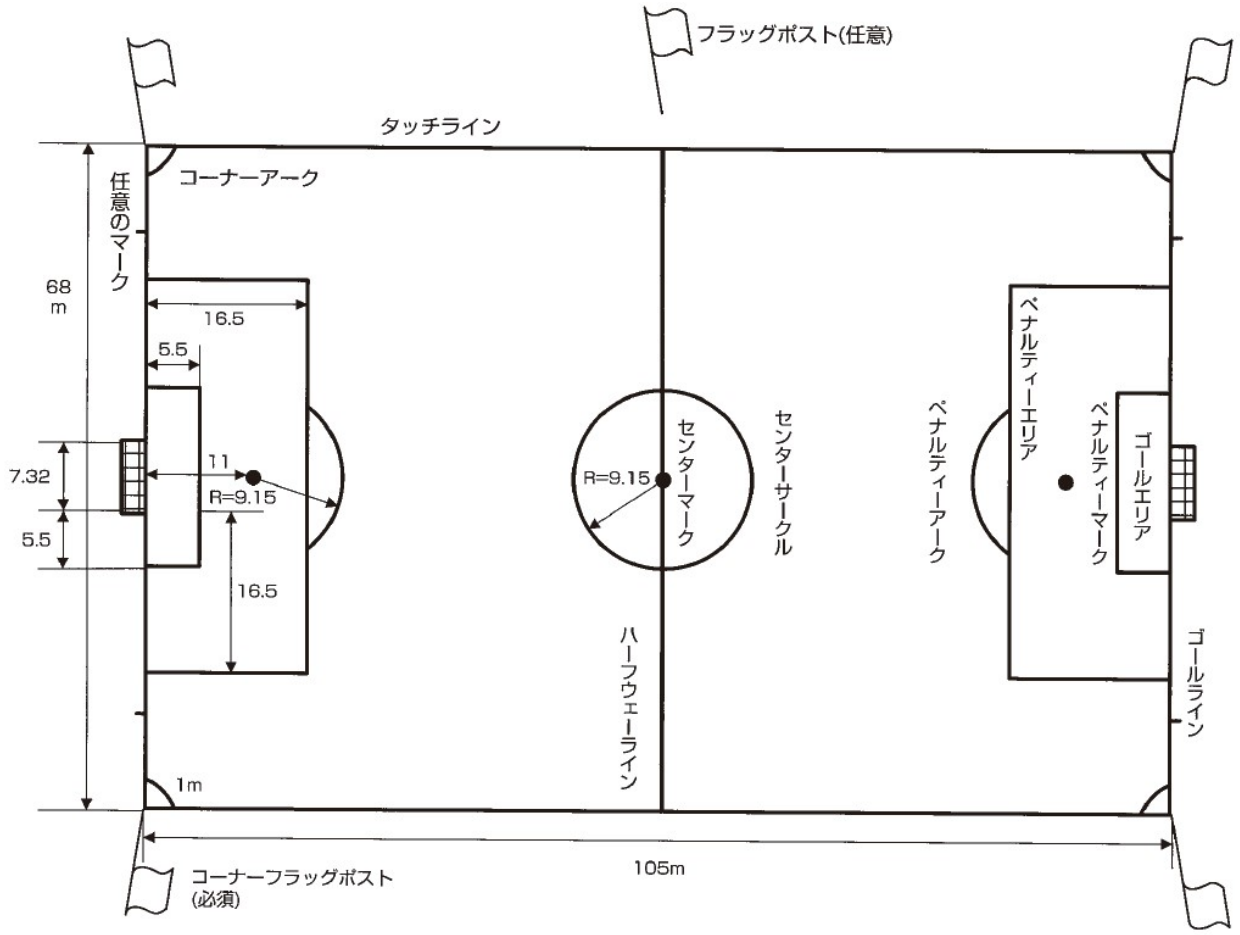
競 技 の 見 方

サッカーは、手または腕以外の身体でボールをドリブルしたり、パスしたり、ヘディング（頭でボールを扱う）したりして相手のゴールにボールを入れることを競い合うスポーツです。ルールを覚えて楽しく観戦して下さい。

（ 図 1 ）



＜歴史＞

競技として型ができたのは、1863 年にイングランドに「The Football Association」が創立されたときからです。以降、ルールも簡単でボール 1 個あれば手軽にでき、大変魅力のあるスポーツだったので、急速に全世界へ普及しました。

日本では 1873（明治 6）年、イギリス軍艦が来日したときに、東京築地でダグラス少佐が兵学寮の生徒に教えたのが始まりとしています。1964（昭和 39）年の東京オリンピックの翌年に日本アマチュアスポーツ界で初の全国リーグ（日本サッカーリーグ）が誕生し、以後青少年の間に急速に普及しました。

1993（平成 5）年のプロリーグ（J リーグ）開幕を機に競技力が飛躍的に向上し、それまで出場の叶わなかった FIFA ワールドカップや、メキシコ大会以来出場できなかったオリンピックにも連続して出場できるようになりました。

2002（平成 14）年にはそのワールドカップを自国開催（韓国と共催）し、2011（平成 23）年には女子ワールドカップで優勝するなど、競技力の向上とともにさらに人気スポーツとして定着し、男女問わずますます愛好者が増え続けています。

＜競技者の数＞

11 人以下で編成された 2 チームによって行われます。番号付きの揃いのユニフォームを着ていますが、1 人だけ違った色のユニフォームを着ているのが、ゴールキーパーです。ゴールキーパーは、自陣のペナルティーエリア（図 1 参照）内であれば、手または腕でボールを扱うことができます。

＜審判員＞

審判は、主審、副審（2 人）、第 4 の審判員の 4 人によって行われます。

＜競技の方法＞

センターサークル中央のセンターマークからキックオフによって競技が開始されます。相手ゴールにボールを入れれば 1 点となり、試合中に多く得点したチームが勝者となります。

国体の競技時間は、70 分（前・後半 35 分、ハーフタイムのインターバル 10 分）で行われます。時間内に勝敗が決しない時は、1 回戦から準決勝及び 3 位決定戦は、ペナルティーキック方式により、次回戦進出チーム及び 3 位を決定する。決勝戦は、20 分間（前・後半 10 分間）の延長戦を行い、なお決しないときは、ＰＫ戦により、1 位を決定する。

＜ボールがフィールドの外に出たとき＞

ボールの全体がラインの外に出たときは、出たラインによって次の方法で試合が再開されます。

〇スローイン

ボールがタッチラインを超えたときは、最後にボールに触れたチームの他方のチームが、ボールの出た地点より、頭の後方から頭上を通して両手を用いてボールを投げます。

〇ゴールキック

ボールがゴールラインを超え、ボールが出る前に攻撃側競技者が最後に触れたときは、守備側競技者がゴールエリア内の任意の地点からボールをキックします。

〇コーナーキック

ボールがゴールラインを超え、ボールが出る前に守備側競技者が最後に触れたときは、攻撃側競技者がコーナーエリア内からボールをキックします。

＜ファウルと不正行為＞

サッカーでは、単に身体と身体が触れ合ってもファウルではありませんが、以下のような場合にはファウルとなり、相手チームのフリーキック（直接・間接）になります。

また、直接フリーキックとなるファウルを自陣のペナルティーエリア内で犯した場合は、ペナルティーキックになります。

〇直接フリーキック

ボールが相手ゴールに直接入った場合、得点となります。

競技者が次の反則のいずれかを不用意に、無謀にまたは過剰な力で犯したと主審が判断した場合

① 相手競技者をける、またはけろうとする。
② 相手競技者をつまずかせる、またはつまずかせようとする。
③ 相手競技者に飛びかかる。
④ 相手競技者をチャージする。
⑤ 相手競技者を打つ、または打とうとする（頭突きを含む）。
⑥ 相手競技者を押す。
⑦ 相手競技者にタックルする、またはチャレンジする。

また、次の反則のいずれかを犯した場合

⑧ 相手競技者を押さえる。

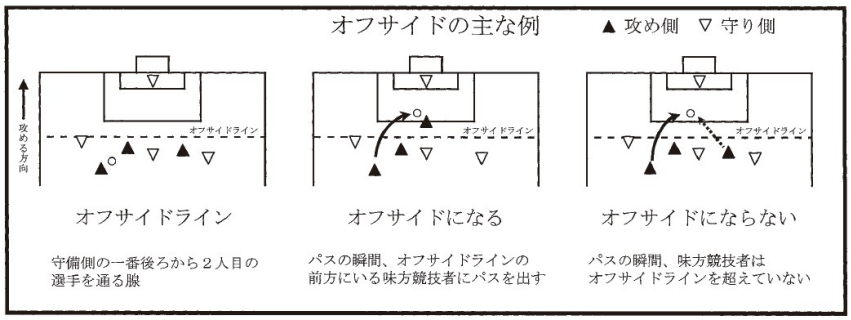
⑨　身体的接触によって相手競技者の進行を遅らせる。
⑩　チームリストに記載されている者もしくは審判員をかむ、またはこれらに向かってつばを吐く。
⑪　ハンドの反則を行う（自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く）。
⑫　ボール、相手競技者もしくは審判員に向かって物を投げる、または持った物でボールに触れる。

○間接フリーキック
キックされたのち、ゴールに入る前に他の競技者がボールに触れた場合のみ得点となります。（主審は片腕を頭上に上げて示します）
ゴールキーパーが自陣のペナルティーエリア内で、次の反則のいずれかを犯した場合
①　ボールを放すまでに、手や腕で６秒を超えてコントロールする。
②　ボールを手放した後、他の競技者がボールに触れる前に手や腕でボールに触れる。
③　ボールが味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされる。
④　味方競技者によってスローインされたボールを直接受ける。
⑤　危険な方法でプレーする。
⑥　身体的接触を伴わずに、相手競技者の進行を妨げる。
⑦　ゴールキーパーがボールを手から放すのを妨げる、または、ゴールキーパーがボールを放す過程でボールをける、またはけろうとする。
⑧　競技者を警告する、または退場させるためにプレーを停止することになる競技規則に規定されていない反則を行う。
⑨　オフサイド

＜オフサイド＞

試合を見ていて、非常に良い位置にいる攻撃側選手にボールがパスされ、「チャンスだ!!」「シュートだ!!」と思って喜んだら、主審の笛が鳴って守備側の間接フリーキックになってしまうことがあります。これは、オフサイドの反則が適用されたのです。相手のフィールドへ攻め込んだとき、パスが自分に出される前に先回りして待ち受けしてはいけないという規則なのです。しかし、このとき相手のゴールラインと自分の間に守備側の選手が２人以上いればオフサイドにはなりません。（図２参照）

（　図　２　）



ボールが味方競技者によって触れられるかプレーされた瞬間にオフサイドポジションにいる競技者は、次のいずれかによってそのときのプレーにかかわっていると主審が判断した場合にのみ罰せられます。
・味方競技者がパスした、または触れたボールをプレーする、または触れる。
・相手競技者のプレーを妨害する。
・その位置にいることによって利益を得る。

＜警告・退場＞

反スポーツ的行為や悪質な反則、乱暴な行為に対しては、警告や退場が命じられます。